



むぎの郷

通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

September 2025

こじか園／第二こじか園／はぐるま共同作業所／はぐるま共同作業所 和の社／はぐるま共同作業所 ラ・テール／麦の郷印刷／ソーシャルファームピネル／むぎピース／ソーシャルファームもぎたて／megluck(メグリユック)／六星舎／叶夢向／麦の郷 和歌山生活支援センター／麦の郷 紀の川生活支援センター／障害者就業・生活支援センター つれもて／くろしお作業所／麦の郷訪問看護ステーション／麦の郷居住福祉事業所／ハートフルハウス 創／事務所／ゆめ・やりたいこと実現センター／ちいき暮らしサポートセンターわかやま／Rework支援センターANEW／麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美

発行／麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643

TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://www.muginosato.jp>



はぐるま共同作業所 6月18日(水)
製菓事業部 カラオケレインボー



こじか園 7月23日(水)
海あそび



第二こじか園 七夕笹飾り



私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展をめざします。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践をめざします。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



ハートフルハウス創の日常と想いを描いたドキュメンタリー映画 「マイペース・マイスペース」 完成披露試写会 6月14日（土）

完成披露試写会には、50 名を超える方々が出席し「ぜひ、たくさんの人に観てもらいたい作品だ」と感想を頂きました。今後、自主上映を中心に広がりますので、上映企画をご検討される方はご一報いただければ嬉しいです。

少し、内容と想いを綴らせてもらいます。



『葛藤を抱えながら新しい生き方をともに創る。その想いが、静かに発露する素顔を描く』これは、出演メンバーが中心となり考えた映画チラシの一節。映



像の中でそれぞれが語る「わたしたちは生きて（生きて）いる」と。しかし、さまざまな葛藤は常につき纏う、生きて（生きて）いいのだから。私たちは、単に人生のサクセスストーリーを描いてほしかったわけではない、ありのままの姿を映し出し、それぞれにとっての生き方を保障する居場所があることを多くの人に知ってもらいたい。そして、私たちの活動を支える山崎邸には百年の時が織りなす不思議な受容がある。幾つもの時代を経てきた山崎邸とそれぞれの現在（いま）が交錯する温色が映像を通じて滲み出す、静かに力強く。

（ハートフルハウス創 野中 康寛）

日々是雑感④ 追想 多田君のこと①

私が大学に入学したのは 1973 年です。高校時代に笠田高校で、進歩的な二人の先生の指導を受け部落問題や人権について学び、田辺高校で活発化した制服自由化運動の影響を受けた高校生運動を少し行ったものの、私たちは、学生運動が盛んな時代の反動として生まれた「しらけ世代」でした。特にどんなことをしたいと強く思い大学に入学したのではありません。その時、活発に勧誘していた障害者問題研究会に面白さを感じ入部したのです。

そこで、一番最初に、少し怖そうな上級生に「不就学をなくす会」の運動に関わって欲しいと言われ、名古屋大学教育学部のある研究室に出入りするようになりました。そこで出会ったのが、田中良三先生（見晴台学園大学学長）です。先輩方や田中先生に、全障研のことを紹介され、「不就学をなくす会」や全障研等のいろいろな団体が関わる夏の合宿で出会ったのが多田君です。

先輩から多田君の担当をと言われ、事前に多田君について説明を受けましたが、発達年齢や発達段階等の

専門的な説明はさっぱり理解できないままの参加でした。ただ「懸命にがんばろう、」と思い参加したのです。

多田君をおんぶした時に、最初に見舞われたのが、肩への噛みつきと髪の毛を抜く行為でした。それはそれは痛いものだったことを覚えています。ただ、その様子をみていた先輩が、「多田君、こうへいのこと好きになりつつあるね」と言ったのです。私は、心のなかで「なにを無責任なことを、」と思ったものの言葉にすることができませんでした。

多田君とのことは、次にもう少しお話しします。多田君のうんちを小川できれいにした時の笑顔などを。（理事長 山本 耕平）

日々是雑感とは、私の人生で感じたことや思ったこと、四方山話などを徒然にお話しようと思い、このテーマにしています。

2025年度の麦の郷新人研修



麦の郷新人職員研修が6月19日(木)、7月3日(木)に実施されました。今年度は森理事（六星舎管理者）から『麦の郷の歴史と実践への想い』について、山口理事（第二こじか園園長）から『発達と人権』についてそれぞれ講義があり、18名の方が受講されました。受講後の感想として「支援する / されるではなく、共に働く仲間として築かれた関係性を大切にしていき

たい」「自分の“当たり前”や固定観念に気をつけていきたい」「利用者さんがその人らしく生きるにはどうすれば良いか考えながら実践していきたい」などがあり、多くの気づきがあったものと思います。今回の研修で得られた気づきを、これからの実践の中で大いに活かしてもらいたいと思います。

（障害者就業・生活支援センター つれもて 氏原 嗣朗）



* むぎ・わくわくレポート 26 *

こだわりからの脱却

発達障害の A さん。ご飯の作り方をお母様から教えてもらっていたのですが、カレーにすりおろしリンゴやコーヒーを入れないといけないという思いが強く、食費がかさんでいました。年金だけで生活が苦しく、米の高騰や物価の高騰もあり、おかずを作らず米ばかり食べている毎日でした。お腹も空いてイライラし、同居している弟にも八つ当たりしていました。そんな時、看護師が「私なら 500 円でカレーを作れます」と A さんに言った所、衝撃を受けた A さん。買い物リストを一緒に作成し、材料を購入してもらい A さんが「一人だと不安」と言うので、後ろから見守り作り方を指導する事で、安価なカレーが完成しました。弟さんと 2 人、夢中でカレーを食べており、次はシチューが食べたいと嬉しそうに話してくれました。（麦の郷訪問看護ステーション 山ノ井 浩子）

諦めない事が肝心

被害妄想の B さん。物を盗られる恐怖から、筆筒に大事なものをしまい込んで、外からチェーンを巻いて鍵をしていました。訪問した時に、チェーンの鍵を紛失しており、探したけれども見つからない。「もういいんよ」と諦めムードになっていました。筆筒の中には洗剤や食べ物、お茶等、すぐに使いたい必要物品があり、諦めずに探そうと、色々なところを探しました。最後にカバンをひっくり返し、一生懸命に目を凝らすとカバンの奥底から鍵が発見されました。小さいおみくじキーホルダーも発見され、運試しに振ってみようと提案すると、なんと「大吉」が出たではありませんか。2 人で顔を見合わせて大笑いしました。

（麦の郷訪問看護ステーション 金城 恭子）

か な た

叶夢向新築移転

令和7年5月1日、叶夢向（ウエス事業部）が新築移転しました。

ウエス事業は一麦会の認可によって誕生したむぎ共同作業所が、とある一般のウエス業者の廃業にともない、その事業を引き継ぎ一麦会の建物内の一角でスタートしました。当時のむぎ共同作業所は、精神障害者通所授産施設であったため身体障害、知的障害のなかまは所属できませんでした。そのため、無認可の黒潮第二作業所所属のなかま数名といっしょに活動していました。このウエス事業は、原材料の生地、出来上がった製品を置くためのスペースが必要であり、作業スペースも合わせるとどうしても手狭で非効率な動きの繰り返しであったため、一麦会から数100m東にある倉庫を借りて事業を安定、拡大させていきました。しかし、広いワンフロア



倉庫時代のウエス事業部

のうえ空調設備も厳しい環境であり、みんなが過ごす作業、休憩用の棟と、原材料や製品在庫等の置き場所として別棟も借りていたため賃借料の経費が高くなっていたところに、当時の県の指導監査においても、日中に利用者が過ごす場所として倉庫は不適切、場所を探して移転しなさいという指導がありました。空調設備を整備し改装等をして、建築基準法に基づく建物の構造は倉庫であるため、数年かけて移転先を探し和歌山市出島の物件に決め、当時の新しくできた障害者自立支援法に基づく新体系への移行にタイミングを合わせ、むぎ共同作業所は終わり、くろしお作業所の第二分場としてスタートしました。

当時、私がおむぎ共同作業所の施設長でしたが、新体系移行によってソーシャルファームピネルの管理者になったため、ウエス事業とのかかわりはなくなりました。当時のウエス事業の責任者であった職員に新名称を聞いたところ「めぐ



出島時代のウエス事業部

み」にしたと。なんと無難な落ち着いた名称やなと思っていたところ、後日文字で見てビックリ！「めぐみ」や「恵」ではなく「め組」！さすがに思いましたし、愛着のある名前が2018年にめ組から叶夢向に変更するとき寂しい思いがのこる名称でした。

2017年に私が人事異動でめ組に着任し、2018年4月にくろしお作業所から独立し、新事業所として叶夢向がスタートしました。この叶夢向という名前ですが、「みんなそれぞれが夢を叶えるために向かっていきましょう」ということですが、決めるにあたっていくつかの候補がありました。最終的に「叶夢向」と「叶夢大」に絞り当時の在籍していたなかま18人で投票を行いました。結果、なんと9対9の引き分け。そのため、2回目は職員4名も投票し、なんと11対11の引き分け。皆さん、多数決は必ず奇数の人数でやりましょう。引き分けが続いてしまったため、なかまの代表者1人ずつがプレゼンを行い、3回目の投票をした結果12対10となり叶夢向に決定しました。私は、「大きな夢を叶えましょう」にこだわっていましたが負けました。もっと言えば一麦会の始まりであり施設長もしていた「むぎ共同作業所」を復活させたい思いもありましたが最終候補にも残らずでした。

この叶夢向の名称で再スタートしましたが、賃借物件のうえ老朽化した建物の構造上、トイレや階段等が苦になるなかまが増えてきたため今回の新築移転に至りました。トイレが1階にはシャワー付きを含む3カ所、2階には2カ所あり、3人乗りエレベーター、男女別更衣室、全員が同時に食べれる食堂、手狭さを感じない作業スペース等、全員が過ごしやすい環境の事業所となりました。これを機に職員、なかまが笑顔で頑張り、安定した日々を送れるように活動していきます。

（叶夢向 田村 知己）



社会福祉法人
一麦会 叶夢向

〒640-8301 和歌山市岩橋 729-6
TEL:073-474-6997 FAX:073-494-6998
E-mail:muginosato-kanata@alto.ocn.ne.jp



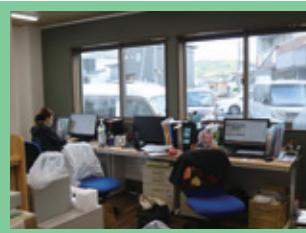
外観



作業室



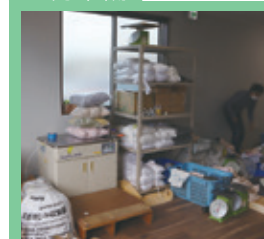
事務所



カウンター

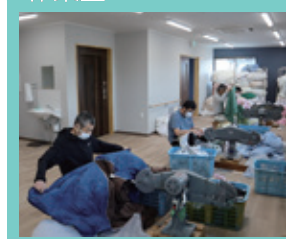


出荷準備



車椅子用トイレ

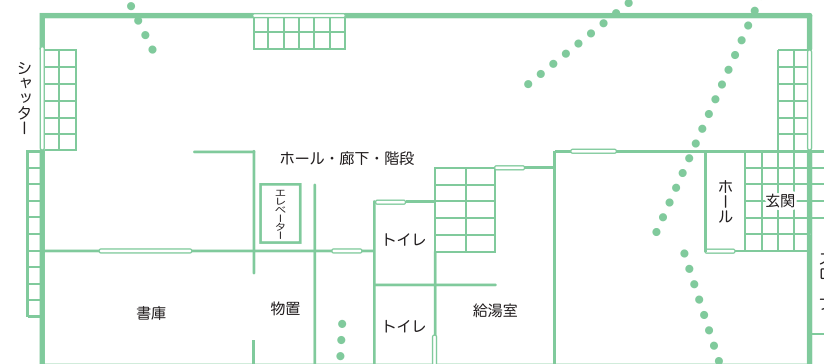
作業室



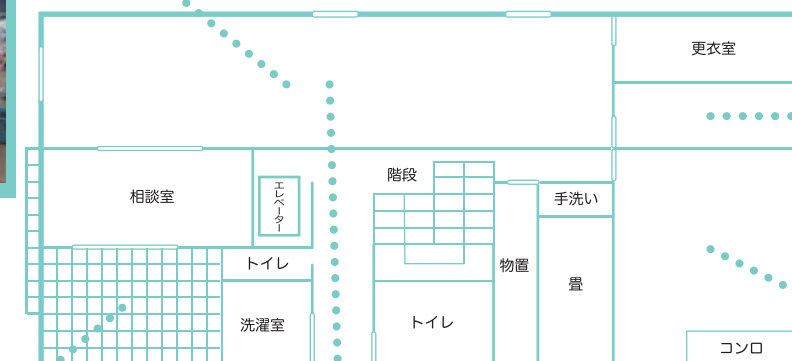
バルコニー



叶夢向 1F



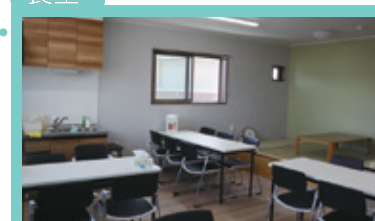
叶夢向 2F



更衣室



食堂



作業室にて叶夢向内覧会



桂文福師匠・麦の郷に！



去る5月17日、「和歌山芸能県人会」の皆さんが、麦の郷本部にボランティアで来てくれました。

当日は、県人会会長である桂文福師匠をはじめ、宮本静さん、岡村こうじさん、キングダムけんたさんの皆さんが、ソーシャルファームピネルとはぐるま共同作業所の仲間たちに落語・歌・漫談を披露してくださいました。本当に楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました！

(ソーシャルファームピネル 山本 哲士)

感染症対策研修会、開催



7月31日16時より麦の郷地域交流室において麦の郷安全対策委員会企画による事業継続計画（BCP）感染症等対策研修会を開催しました。参加者は25名でほとんどの事業所より参加がありました。

今回は和歌山市の出張出前講座において、和歌山市総務企画課卯辰暢子様、和歌山市生活保健課西山貴士様がそれぞれ感染症、食中毒の講義をおこなってくださいました。

卯辰様、西山様、ありがとうございました。学んだ知識を各事業所のなかま、スタッフで共有させていただきます。

(麦の郷安全対策委員会 武田 賢二)

居住Tシャツ まもなく完成します

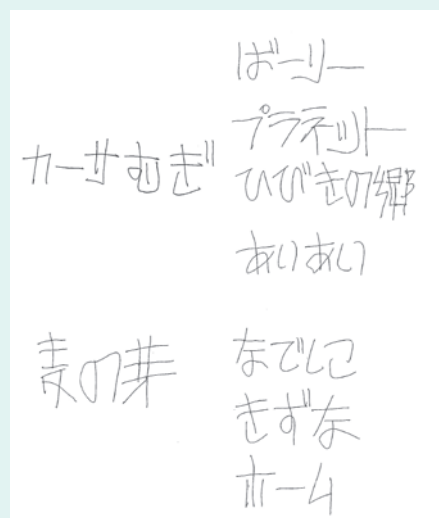
ホームのスタッフ・仲間のみんなが着るTシャツを仲間の皆さんにデザインしてもらいましょう！と、6月に居住福祉事業所のオリジナルTシャツ作成の企画をしました。法人内の各事業所に呼びかけ、54作品の応募をいただきました。どの作品も力作で、作品を見た居住スタッフから笑顔が出たり、感嘆の声が上がるほどでした。

審査の結果、デザインは創カフェの宮坂さんの作品「HOME」と、あいあいホームの岡田さんの「麦の郷ホームの名前」に決定しました。まもなくTシャツが完成します。

(麦の郷居住福祉事業所 城 喜貴)



創カフェ 宮坂さん



あいあいホーム 岡田さん

年に1度の大舞台！



5月18日（日）、紀三井寺陸上競技場で行われた和歌山県障害者スポーツ大会に、仲間2名が参加しました。1人は100メートル走に、もう1人は立ち幅跳びに出場しました。大会前にはひっそり練習も重ねました。年に1度のこの大会、本番の緊張感もありながらも、それぞれの競技に全力で向かっていて、頑張っている姿を見られたことがうれしかったです。2人ともメダルをもらうことができ、誇らしげな表情でした。来年もがんばりたいと話していました。

(くろしお作業所 道幸 美也子)

魅力いっぱい神戸どうぶつ王国



7月4日（金）和歌山県の福祉バスを利用し神戸どうぶつ王国を21名で訪問しました。車中では王国にちなんだクイズで盛り上がりしました。トラが肉の塊を食べる迫力シーンやスナネコの可愛さに感動！ハシビロコウも見られてうれしかったです。暑い日でしたが水分補給をこまめにとり、みんなで楽しく回って、ステキな思い出が増えました。(麦の郷和歌山生活支援センター 濱田 麻里)

バイキングレストラン ゴンドワナに行ってきました



梅雨時で雨も心配されましたが、職員含め総勢30名が参加することができました。天候もよく「日頃のおこないがいいからなあ」など冗談を言いながらマリナーシティにつきました。黒潮市場には目もくれず、2階にあるゴンドワナに一直進です。下調べは、ばっちり。サラダから食べる人、好きなデザートから食べる人、海鮮を目指す人など、目をキラキラさせながらお料理に手を伸ばします。「もう、3回目じゃない？」と少し心配する間もなく、時間が過ぎました。あとは自由散策です。乗り物に乗り、店に入って買い物を楽しみました。(はぐるま共同作業所 和の杜 西岡 君子)

力を合わせて合同作品



恒例となった作品展では、一昨年は花火、去年は海、そして今年は山をテーマにむぎピースと和歌山生活支援センターのみなで協力して作品を作り上げました。七夕が近かったこともあり、願い事を書いた短冊を飾りました。「気持ちがあっさりした」「楽しかった」などの感想がたくさん寄せられました。お越しいただいた皆さま、ありがとうございました。

(むぎピース 井上 水花)

青葉仁会さんに視察研修に行ってきました



麦の郷教育研修委員会の企画で、奈良県にある社会福祉法人青葉仁会さんに視察研修に行ってきました。青葉仁会さんは農業・レストラン・アート等の事業を展開している法人で、どの事業所もきれいで設備も本格的につくられており、お店も商品もおしゃれで人を惹き付ける魅力でいっぱいでした。何より職員さんも利用者さんも元気で、昼食を頂いたハーブクラブさんでは、ウエイトレスさん(利用者さん)の真剣さと微笑ましい姿が、周りの人を自然と笑顔にさせてくれる空間で、ほんわかとした時間を過ごさせて頂きました。

そして、自然に触れて五感を刺激することで、心が豊かになり人は発達していくお話や、様々なものづくりの過程には、人が成長できる大きな可能性があるお話をお聞きし、自分で経験することの大切さや、成長しようとしている小さな芽に気づき、共に成長することの大切さを改めて感じました。
(はぐるま共同作業所 ラ・テール 更家 亜紀)

円応教・紀の国教会よりご寄付!

円応教・紀の国教会の皆様から、今年もご寄付を頂きました!

毎年、教会内で募金活動して頂いたお金を、麦の郷に寄付して下さいます。

こども達の療育に必要な物品の購入等、大切に使用させて頂きます。

円応教・紀の国教会の皆様、本当にありがとうございます。

(ソーシャルファームピネル 山本 哲士)

第25弾 障害者週間 広がれネットワーク

『障害者週間広がれネットワーク』は2001年より那賀圏域の障害者施設・当事者・地域の人たちが集まり、障害のある人が、地域で心豊かな生活ができる社会を実現するために、障害者権利条約の理念を大切に、毎年イベントを行っています。私たちの想い・願いを実現するために、皆さんとともに学習し、語り合いたいと思います。障害のある人もない人もお気軽にご参加ください。参加費は無料です。

開催日: 2025年12月6日(土) 13:00 ~ 17:00

開催地: 岩出市総合福祉保健センター(あいあいセンター) 3F
多目的ホール他(岩出市金池92)

タイムスケジュール

映画鑑賞会: 13:00~15:00 ※「星に語りて」上映

舞台発表会: 15:15~17:00

フィナーレ: 17:00~17:10

※その他、12月1日(月) 午前「みんなの願いを語る会」、12月9日(火) 夜「創ドキュメンタリー映画」上映
詳細は、QRコードをご確認ください。



むきのひと



麦の郷和歌山生活支援センター
構口 大輔

麦の郷和歌山生活支援センターで働いて4年目の構口 大輔です!

地域活動支援センターI型の職員である私の仕事は、利用者さんが気軽に集い、安心して過ごせる居場所を提供することです。また、日常生活のスキル向上を目指す機会を提供したり、地域活動への参加支援や生活支援も行い、利用者さんが地域の一員として活躍できるようサポートしています。

私が入職するきっかけとなったのは、18年ほど前に出会った麦の郷のある方に憧れたことです。その方は、いつも温かい気持ちで利用者さんと向き合っていて、その姿に心を打たれました。「自分もこういう支援がしたい!」と強く思い、この仕事を選びました。転職するまで、長年その気持ちを温め続け、実際に行動に移すまでには時間がかかりましたが、ようやくその思いを実現することができました。

これからも、憧れたあの人のように、温かく、真摯に利用者さんに寄り添い、地域での自立した生活に向けた第一歩を共に踏み出せる支援者であり続けたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します!